

子どもの心身ケア

西日本豪雨

倉敷など一時預かり、遊び場提供

西日本豪雨で甚大な被害を受けた倉敷市で、被災地の子どもを一時的に預かったり、遊び場を提供したりする動きが広がっている。被災した自宅の片付けに追われる保護者らの負担を軽減するとともに、ショックを受けた子どもたちの心身をケアする狙い。「助かる」「楽しく過ごせた」などと感謝の声が上がっている。

約1200名が水没した倉敷市真備町地区では、保育園や小規模保育事業所など5カ所の保育施設が浸水し、子ども計約390人が行き場を失った。市は8日から、市内14カ所の保育認定こども園で「緊急的一時預かり事業」を開始。通常一時預かりは保育施設に通う子どもは対象外だが、原則被災者であれば利用できるよう要件を緩めた。

日曜、祝日はうち5カ所を実施。16日は真備町地区から南東約6キロの遍照保育園（倉敷市西阿知町）が、同地区で浸水した妻の実家の片付けに来岡した会社員後藤勇輝さん（30）＝福岡県久留米市＝の長男（4）と長女（2）を受け入れた。子どもは保育士と一緒に玩具で遊んだり、昼寝したりして過ごした。後藤さんは「被災地はがれきりやごみが散乱し、子どもにとって危ない。預かってもらえたおかげで作業に集中できた」と話した。

倉敷市の児童館は11日から、避難所近くの幼稚園などで3歳から小学生を対象とした遊び場を緊急開設。市は14日から園幼稚園（同

市真備町市場）でも0～2歳の託児所を開いており、17日からは真備公民館二万分館（同町上二万）に移る。岡山県は18日から、県立大（総社市窪木）で原則0歳から小学校低学年の一時預かりを始める計画だ。

ボランティアも奮闘している。岡田幼稚園（倉敷市真備町岡田）などに市民らが託児所を特設。同園を訪れた小学1年女児（6）は「（浸水した）家はごみだらけだし、大切な絵本がぬれて悲しかった。ここは友だちに会えるからうれし」と笑顔を見せた。

倉敷市子ども未来部の藤原昌行部長は「子どもたちが安全に過ごせる場所を確保し、提供したい。被災で傷ついた子どもたちの心と体のケアも欠かせない」としている。



ボランティアが被災した子どもを預かった岡田幼稚園。16日、倉敷市真備町岡田